





歸 阪 御 挨拶

晩秋の節々相成り参々御清通奉大賞候御座る七月當座に於ける意義ある一轉化の劇行に際しては多大の御愛顧を蒙り断し所志の一端を貫徹するを得たる喜びを述ぶるに遠も難し當りし御別れを致候し早くも三ヶ月を廻し申被致しては各地演業中に於ても技藝の輝輝たるを以て傍ら今幾の方向に専心して得たる處のもの今回上演の二大作に有之候當初宿志の交際の殊償は遺憾なき此名譽を得て進出 同の謝禮と相成候へ共成合は蒙つて各位の御引立に候つの外御座無く何卒此上の御禮形を具書の上候。 新編劇代表者 澤 田 正 二 郎 謹白

當る大正九年十月十六日より毎日午後四時開演

ドフトエフスキ氏原作  
坪内士行氏脚色  
四非と四訓  
四幕



芳明

登場人名

第一幕 第二幕 第三幕 第四幕  
第一場 第二場 第三場 第四場  
第一幕 第二幕 第三幕 第四幕  
第一場 第二場 第三場 第四場

大正九年十月十六日より毎日午後四時開演  
第一幕 第二幕 第三幕 第四幕  
第一場 第二場 第三場 第四場  
第一幕 第二幕 第三幕 第四幕  
第一場 第二場 第三場 第四場  
第一幕 第二幕 第三幕 第四幕  
第一場 第二場 第三場 第四場